

復命年月日	令和6年9月27日(金)
出張年月日	自 令和6年7月29日(月) 至 令和6年7月31日(水) 3日間 宿泊一有り
用務地	石川県小松市、福井県福井市、福井県大野市
用務	環境建設委員会 行政視察
てん末 (資料添付)	7月29日(月)  石川県小松市視察(午後2時30分～午後4時00分)  ・空き家対策事業について
	7月30日(火)  福井県福井市視察(午前9時40分～午前11時30分)  ・未来へつなぐ福井の農業活性化プロジェクトについて
	7月31日(水)  福井県大野市視察(午前9時30分～午前11時00分)  ・有害鳥獣分解処理施設について
	※ 環境建設委員会行政視察報告書は別紙のとおり ※ 環境建設委員会各委員の所感については別紙のとおり

## 環境建設委員会 行政視察報告書

### ◆7月29日(月)(1日目)

- ・目的 空き家対策事業について
- ・視察先 石川県小松市役所

#### 【概要】

#### ◎空き家対策事業について

人口10万人、世帯数4万5千戸、空き家2千1百戸の小松市。

伊万里市は人口5万2千人、世帯数2万3千戸、空き家1千1百戸とそれぞれ

小松市の約半分の生活環境の中で、どのような先進的な取り組みをされているかの興味を持ちながら視察した。

全国的に少子高齢化、人口減少が進行する中、空き家を増やさない、空家の利活用を柱に様々な活動をされている。以下事例の概要を列記する。

#### 1) 町内会を巻き込んでの活動

老朽危険空き家跡地活用事業を立ち上げ、老朽危険空き家とその土地を市に寄付していただき、市が解体し、町内で管理か売却かを決定する。

#### 2) サポートセンターの活用

相続財産管理人制度の活用として、条例に基づく応急処置費用の回収と相続人不存在により空家法の措置手続きを進められない相続放棄人によって、職員が裁判所へ申立を行い土地売却を可能にした。

#### 3) さかさまバンク活用

- ・利用希望者の想いを見る➤空き家を売りたい・貸したいと思える人を市ホームページで探す。
  - ・自分の想いを公開する ➤申込書を市に提出する。
- ⇒利用希望者から所有者に連絡を取り、合意に至れば物件を契約する。

### ◆7月30日(火)(2日目)

- ・目的 未来へつなぐ福井の農業活性化プロジェクトについて
- ・視察先 福井県福井市役所

#### 【概要】

#### ◎未来へつなぐ福井の農業活性化プロジェクトについて

伊万里では中山間地を中心に高齢化、後継ぎ問題が喫緊の課題の只中にある。今回、「未来へつなぐ福井の農業活性化プロジェクトについて詳細な説明を受け、興味を持って聞いた。以下事例の概要を列記する。

1) 29品目を「ふくい一押し逸品」として、また32品目を「生産推奨品」として、さらには「さんりはまベジフルブラシアップ事業」として、まるごと野菜を市を挙げて生産し供給されている。

2) 市内農産物の学校給食に地場産食材をより多く使用されている。

3) 人・農地プランから法定化された地域計画を先んじて推進されている。

### ◆7月31日(水)(3日目)

- ・目的 有害鳥獣分解処理施設について
- ・視察先 福井県大野市役所

#### 【概要】

#### ◎有害鳥獣分解処理施設について

伊万里市猟友会の抱える問題として、猟友会の会員減少と高齢化、埋設場所の不足等、イノシシを中心とした有害鳥獣対策は長年の課題であり、解決には至っていない。今回有害鳥獣分解処理施設について、現場視察も計画され興味を持って見聞きた。

#### 1. 背景

有害鳥獣捕獲後の処分については、現地埋設もしくは切断・冷凍保存後に焼却処分を行っていたが、捕獲隊の負担が年々増していたため、平成29年1月より、NEXCO 中日本の協力の下、おがくずに含まれる微生物の力を利用して有害鳥獣個体を分解処理する施設運用の実証実験を行い、一定の効果の確認ができたため、有害鳥獣処分の省力化に向けて有害鳥獣分解処理施設の整備を行うこととなった。

## 2. 事業内容

- ・処理計画頭数：400頭/年
- ・整備内容：減容化施設 1式
- ・事業実施主体：大野市鳥獣害対策協議会

## 3. 事業費

- ・53,011,800円（国費55%・市45%）

## 環境建設委員会各委員の所感

### 環境建設委員会 前田邦幸委員長

#### 1. 小松市視察 空き家対策事業について

小松市は取り組みとして、平成22年に空き家バンク制度創設され、令和5年にはさかさまバンク制度創設されている(空き家だけでなく、空地も希望される方の情報も登録する)高齢者が居る世帯47.5%と言う小松市。空き家の数も増加傾向であり、市では空き家等の適正管理に関する条例を制定し、空き家に人が住むことを促進する。

地域コミュニティの活性化、景観の維持向上、不動産市場の流動化を期待している。また空き家有効活用の助成事業、空き家バンク等も行い、市民に好評のようであった。本市においても、時にあった工夫した対策が必要である。

#### 2. 福井市視察 未来へつなぐ福井の農業活性化プロジェクトについて

農地の約7割が耕作放棄地であった三里浜砂地(園芸産地)の農業活性化のため、平成26年度に策定され、官民連携で、新規就農者の受け入れ体制を整備し、「農業所得の向上に向け、稲作と園芸を組み合わせた複合経営への転換」を基本方針とし、農家への支援としては、スマート農業普及に向けた機器購入補助を実施されている。この事業は2期目であり、基本実現のために施策を5つあげられ、特に新規就農者の確保で先進農家などと連携して、受け入れ体制の整備、技術指導や経営指導の研修を実施している。園芸の推進については、地域別の生産推奨品目を決め、ブランド力を上げ、就農安定化を図られていた。

本市も水稲と園芸の複合経営の推進のためには、就農安定化を図るため、産地化とブランド化推奨するとともにスマート農業技術支援には行政が後押しすべきだ。

#### 3. 大野市視察 有害鳥獣分解処理施設について

四方を山々に囲まれ、被害金額、被害面積もイノシシが最も多く、8割占めていた。高齢化や後継者不足の課題があり、山に埋めるは重労働である。分解処理施設の運用ととなった、施設は森林組合の閉鎖された工場を改築、大鋸屑と攪拌する、1週間で処理している。大鋸屑は市のクリンセンターで焼却する。

本市としても猟友会の皆さんに負担が掛かりすぎで有ります、処理施設を作る事で埋める手間を減らし、1頭あたりの報奨金も2千円上がる、議論すべきだ。

### 環境建設委員会 塚本博幸副委員長

#### 1. 小松市視察 空き家対策事業について

町内会をしっかり巻き込んでの活動や実態を直視した、さかさまバンクの活用等、参考にすべき点が多々あった。

持ち帰り、反映すべきは検討を重ね、難題である空家対策の一助となるように努めていく

#### 2. 福井市視察 未来へつなぐ福井の農業活性化プロジェクトについて

市を挙げての活動が際立った。先進事例として持ち帰り、反映すべきは検討を重ね、苦慮する農業存続の一助としたい。

#### 3. 大野市視察 有害鳥獣分解処理施設について

有害鳥獣処理施設の建設は、過去何回も一般質問をされてきたが施設の建設には至っていない。

今回、現場視察も含め様々な事を教示いただいたので、建設実現に向け一歩前へ踏み出したい。

### 環境建設委員会 加藤奈津実委員

#### 1. 小松市視察 空き家対策事業について

小松市さかさまバンクについて、利用者が希望を提示して物件所有者が提案するという、空き家バンクでなかなか希望に見合う物件が見つからない利用者にとって良いシステムだと感じますが、提案書の提出等がハードルになり、なかなかマッチングするに至っていないということでした。

小松市では空き家バンクの登録数590件に対して、年間契約成立数が553件と好循環が生まれていますので、さかさまバンクについても提案書提出ではなく面談から入るなどマッチングのためのハードルが下げられると、更なる空き家活用に繋がると感じました。

## 2. 福井市視察 未来へつなぐ福井の農業活性化プロジェクトについて

福井市では、生産推奨品目として福井市オリジナルの品目の生産を支援すると共に、昔から作られている作物についても地域支援品目として支援していることから、地域の昔ながらの地場産品も守られていると感じました。

伊万里市の農業者の方とお話しした時に、新規就農者への支援については様々な取り組みがなされていますが、先祖代々の生産物を引き継ぐ場合は支援が少なく、昔から生産されている作物の生産が衰退する可能性があるとお聞きしたことがあるので、福井市のこの取り組みは参考になると感じました。

## 3. 大野市視察 有害鳥獣分解処理施設について

常時稼働している分解処理装置に、捕獲した有害鳥獣を施設利用者がそのまま投入するだけで分解処理できるため、施設の運営・管理に委託費などが発生しないことは利点だと思います。

処理後のオガクズは、成分的には問題はなかったが、豚熱が発生したため、たい肥としての活用はせず、市職員が定期的に入れ替えを行い、焼却処理しているとのことでした。

伊万里には、はちがめプランが微生物による生ごみの分解処理を行い、たい肥としての活用もされていますので、有害鳥獣の処理について連携して行うことができないか、今後検討していけたらと思います。

### 環境建設委員会 川添智徳委員

#### 1. 小松市視察 空き家対策事業について

この制度は平成22年に創設されその後、条例等も整備。今まで活用されてきた。特に印象的だったのが「小松市さかさまバンク」という事業で、居住したい側が逆に登録する制度であった。実績件数こそ少なかったがこの発想自体、今後の本市においても参考にしてよいのではないかと感じた。

## 2. 福井市視察 未来へつなぐ福井の農業活性化プロジェクトについて

このプロジェクトは国からの補助金「デジタル田園都市国家構想交付金」を活用し、事業の推進をしてきた。市運営の「園芸センター」等の活躍もあり、その努力の結果、野菜・果物等、農産物の独自開発に繋がり、ブランド化に成功し、販路は主に関西・中京方面が大部分を占めているという説明であった。

また、新規就農支援にも力を入れており、過去5年間で27名の新規就農者を生み出した実績がある。両面において本市でも大いに参考にすべき取り組みであると思った。

## 3. 大野市視察 有害鳥獣分解処理施設について

この施設はシカ・イノシシ等の有害鳥獣捕獲後の処分について、現地埋設もしくは焼却処分してきたが、捕獲隊の負担軽減の為に建設・整備を行う事となった。総工費は約5300万円(国庫55%・市45%)。整備内容は分解処理装置2台、骨粉碎装置1台、建屋改修1式。事業実施主体として「大野市鳥獣害対策協議会」のメンバーが交代で稼働させている。年間の維持費は電気代等、約150万円程度計上。伊万里市にもこの様な施設が出来たならば、猟友会の皆様も大いに負担軽減になり喜ばれる事業であると感じた。

### 環境建設委員会 山口常人委員

※別紙のとおり

### 環境建設委員会 力武勝範委員

#### 1. 小松市視察 空き家対策事業について

ほとんどの市町村の課題である空家対策について、小松市においても様々な取り組みがなされている。中でも、新たな取り組みとして令和4年12月より「小松市さかさまバンク」制度を創設されている。

通常は、空家の所有者が家を売りたい・貸したい情報を空家バンクに登録し、家を買いたい・借りたい人が、空家バンクで情報を得る仕組みとなっているが、小松市では家を買いたい・借りたい人が、古民家やアトリエなど具体的にこんな家を探していますとの情報を空家バンクに登録することができる仕組み

となっている。

現在の「さかさまバンク」登録者数は16件、契約成立は0件、物件提案数2件（R6.7月現在）と数的にはまだ少ないが、市のホームページ他様々な方法で制度の情報発信がなされており、継続して取り組まれば効果は表れてくると思われる。

家を欲しい方が希望内容を登録するだけであり、経費については殆どかかることはないと思われるので、他自治体においても取組がなされてくるのではないかと思います。伊万里市でも「さかさまバンク制度」について検討されるよう委員会から提案すべきではないかと考えています。

## 2. 福井市視察 未来へつなぐ福井の農業活性化プロジェクトについて

### \*福井市園芸センター（S46 設立、H10 農業構造改善事業によりリニューアル）

福井市の園芸振興のため、現在特産化を目指している金福すいか、銀福すいか、きゃろふく（人参）、※ディノケール、オリーブを始めとする野菜・花・果樹の試験研究や巡回指導を行われている。また、市内の園芸農家に対して土壌分析や育苗といった支援のほか、家庭菜園向けの園芸講習会の実施や各種園芸相談も受け付けられている。

※（ディノケールとは 福井市で特産化を進めているイタリアトスカーナ地方原産のカーボロネロのことです。カーボロネロは、球にならない葉キャベツの一種で、ケールの仲間です。福井の寒さにあたってできた、葉の表面の凹凸が、恐竜の皮膚感に似ていることから、ディノケール（登録商標第 6587358 号）と名づけられ、恐竜王国福井を代表する野菜になることを目指している。）

### \*さんりはまベジフルブラッシュアップ事業

デジタル田園都市国家構想交付金を活用した未来へつなぐ福井の農業活性化プロジェクトの一環で、市内大学生や高校生との連携による地域特産品のブランド化、園芸品目出荷額向上、農業所得向上、農業従事者の増加を目指すことを目的として実施されている。

本来であれば、県の試験場で実施されている農産物の品種改良や新品種の試験栽培、土壌分析や農業指導を、市の事業として専門部署（園芸センター）を設け実施されていることについて、福井市がいかに農業政策に力を入れられているかがうかがえる。

福井市においても、他市町同様農業従事者の高齢化や後継者不足は大きな課題となっている。その解決策の一つとして、特に地域ブランド力の向上を目指すことが重要と思われる。伊万里市においても、現在作付けされている農産物のブランド化に向け、さらなる施策が必要になってきていると思われる。現在 JA 伊万里で計画されているミニトレーニングファームに対し、行政の面からも積極的に援を行い、伊万里市のブランド品の確立に向け推進していかねばならないと感じています。

## 3. 大野市視察 有害鳥獣分解処理施設について

有害鳥獣対策事業における捕獲従事者の負担軽減対策として、2018年4月「有害鳥獣分解処理装置」（幅1.2m、高さ1.4m、長さ7.2mの鋼製直方体の箱型施設で、おがくずに含まれている微生物の力を利用して有害鳥獣個体を発酵分解処理する）を導入されている。

\*分解処理装置2台での処理能力＝年間約400頭

\*施設等整備費用（分解処理装置2台、骨専用破砕機1台、建屋改修費等1式）

≒5,300万円（国庫補助55%）

\*捕獲頭数 H22（イノシシ129頭、ニホンシカ261頭）

H30（イノシシ86頭、ニホンシカ137頭）

R05（イノシシ234頭、ニホンシカ727頭）

伊万里市におけるイノシシの捕獲頭数＝H30（3,244頭）、R4（3,724頭）

同じイノシシでも幼獣から成獣まで個体差はあるが、3,800頭程度捕獲している伊万里市での分解処理施設の導入については難しいと思われるが、大野市が国庫補助（55%）を利用してではあるが、約5,300万円の費用を投じて、有害鳥獣の捕獲従事者の負担軽減対策を図られていることについては参考にすべき部分もある。

伊万里市においても、捕獲頭数の増加に伴う埋設場所の確保や負担増、捕獲従事者の減少や高齢化など課題も多く、委員会として課題を具体的に整理し、課題解決に向けた協議を行う必要があると感じています。

環境建設委員会 井手勲委員

※別紙のとおり

# 環境建設委員会 行政視察報告書

委員 山口常人

## 1. 7月29日(木) 石川県小松市議会 空き家対策事業について

○小松市空き家バンクは、所有者と空き家利用希望者が各々利用条件を提示し、市の中に入り好む家を探しているとのこと。伊万里市も空き家バンク制度はあると思われ、検討したい。

## 2. 7月30日(金) 福井県福井市議会

※り未来につなぐ「福井の農業・畜産活性化プロジェクト」について  
福井市の米作が96%、畑作は5%で400Haあり  
主としてトウモロコシ、キウリ、アスパラ、キャベツ、近郊  
施設園芸野菜、スイカ、ブドウ、海岸傾斜地が水田  
の三大郡生地で成っている。

市の課題～農業従事者の80%が65歳以上で全国平均  
69.8%であり高齢化が進み担い手の確保が問題である。  
ふじやの米の産地は、野菜類は使わず、越前が  
メインだと言った。

## 3. 7月31日(土) 福井県大野市議会

### り有害鳥獣分解処理施設について

有害鳥獣の中でも、鹿が多く、次にイノシシ、サルと年々  
数頭が増えつつある。足つたにふかそうが可。

施設は、45,000円以内で国が55%、県市40%  
能力的には処理量の限定される、埋設はできない標準。  
当市でも施設の検討は進めたいとすべきと考えた。

# 研究研修・調査 報告書

伊万里市議会議長 中山 光義 様

下記のとおり 研究研修・調査 を行いましたので報告します。

令和 年 月 日

NO. 1

氏名 科 手 数 ①

実施年月日	自令和 6 年 7 月 29 日 至 年 7 月 31 日	3 日間	<input checked="" type="checkbox"/> 宿泊	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
場 所	1	石川県小松市			
	2	福井県福井市			
	3	福井県大野市			
内 容	1	空き家対策事業について			
	2	未来へつなぐ福井の産業活性化プロジェクトについて			
	3	有害鳥獣分解処理施設について			
内 容  感 想 等	1. 空き家対策事業について				
	①	老朽危険空き家跡地活用事業			
		実績 1 件 (H3) なかなか良い物件がない。そこはバスの待合場所だったので実現できた。解体費 167 万 4000 円			
		主な要件として			
		・ 町内会の同意を得る、寄付する不動産に物権又は賃借権が設定なし			
		・ 木造である事、活用できるとの市の判断			
	感想	以上の要件があり、事業採択されるのには、ハードルの高い現状			
	②	小松市さかさまバンク制度			
		・ この制度は今まで空き家バンクの逆で空き家を探している個人、法人の希望物件情報を希望者情報として公開し空き家の所有者、管理者より提案いただいた物件を案内し空き家と希望者をマッチングさせる制度			
		・ 尚、物件の賃借・売買に関する交渉、契約等に関して仲介行為はしない。契約に関するトラブル等は責任も当事者間で解決する事。			
	・ 希望者登録から 1 年経過すると、自動的に情報は削除される。				
感想	この方法も希望条件等 ばざりとしていて有効なやり方だと思える。その他は、本市とあまり変わらなくて、内部に以前使用していた物が残っていたり、仏壇とかがあったりとの問題もあった。				

※資料は翌年度から 5 年間各自で保管する (伊万里市政務活動費の執行に関する運用方針 2-(1))

# 研究研修・調査 報告書

伊万里市議会議長 中山 光義 様

下記のとおり 研究研修・調査 を行いましたので報告します。

令和 年 月 日

NO.2

氏名 科 手 数 ④

実施年月日	自 令 6 年 7 月 29 日 至 年 7 月 31 日	3 日間	宿泊 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
場 所	2 福井県福井市		
内 容	2 未来へつなぐ福井の農業活小生化学プロジェクトについて		
内 感 想 等	① 「地域の稼ぐ力」を創出し、活性化を図るためのプロジェクト		
	・ 福井平野 ～ 3大河川に囲まれた平野で「米づくり」		
	・ 三里塚地区 ～ 砂質土壌を利用した、園芸施設野菜、オリーブ を中心にミゼット、スイカ、 (オリーブはこれ子で1,576本苗木を植樹)		
	・ 越前地区 ～ 海岸傾斜地に水仙		
	これら地域の特色を生かし地域経済を設立し、活性化 や道路開拓を進めるとともに 地域新幹線推進による 食、景観、文化、歴史等の地域資源を活かして観光分野 を含め 稼げる地域づくりを目指してのプロジェクト。		
	② 福井市の農業概要		
	・ 耕作面積 ～ 15年度 7,730ha (田 7,330ha, 畑 400ha)		
	・ 農業産出額 ～ " 14億, 9000万円 (米 ~ 51億 4000万, 園芸 23億)		
	・ 農家数 ～ 3,387戸, 担い手数 310経営体, 認定農業 213経営体)		
	・ 認定者 集約増進率 ~ 76.1%		
③ 市農業への課題			
・ 高齢化 (65才以上基幹従事者 ~ 80.2% (全国 69.8%))			
・ 担い手, 後継者の不足			
感 想 心	福井県に降りた時に以前と街並みが全く違って活気が感じられた。新幹線の輸入で農業で学ぶ人も若者中心に活小生プロジェクトを満足させ、勢いを感じた。		

※資料は翌年度から5年間各自で保管する (伊万里市政務活動費の執行に関する運用方針 2-(1))

# 研究研修・調査 報告書

伊万里市議会議長 中山 光義 様

下記のとおり 研究研修・調査 を行いましたので報告します。

令和 年 月 日

N03、

氏名 科 手 数 ⑧

実施年月日	自 令和 6年 7月 29日 至 年 7月 31日	3 日間	宿泊	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
場 所	3. 福井県 大野市			
内 容	3. 有害鳥獣分解処理施設について			
内 感 想 等	① 分解処理施設に至る背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大野市も処分に関しては、以前は現地埋設 又は 切断、冷凍保存後、焼却処分を行っていたが 捕獲量の増加と共に平成29年1月より NEXCO 中日本との協力で、おがくずに含まれる微生物の力を活用し、尸体を分解処理する運用実験を行ない、その結果、一定の効果が確認できたこと、有害鳥獣処分の省力化を図り分解処理施設(減容化)の整備を行なった。</li> </ul>		
	② 処理事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 処理計画頭数/年 ~ 400頭 (おがくず 1/30頭、<sup>1/30</sup> 1/30頭)</li> <li>・ 分解処理装置 2台、骨粉砕装置 1台、運戻 1台</li> <li>・ 事業費 ~ 5,300万円 (国 ~ 55% 市 45%)</li> <li>・ 分解処理日数 ~ 1基あたり 6~8頭 <sup>1/30</sup> 6~9日 <sub>シカ</sub> 10~14日</li> </ul>		
	③ 有害鳥獣捕獲実績 (R5年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イノシシ ~ 234頭</li> <li>・ ニホンジカ ~ 727頭</li> <li>・ カラス ~ 12羽 (外 丹は 34羽)</li> <li>・ カワウ ~ 22羽</li> <li>・ ツキノグマ 48頭</li> <li>・ ニホンサル ~ 66</li> <li>・ イノビシシ ~ 21</li> <li>・ アノグマ ~ 29</li> </ul>		
	感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イノシシよりも、ニホンジカの方が多い。ツキノグマが捕獲されたニホンサルがいたり、大変な地域である。</li> <li>・ 本市はイノシシが4000頭前後捕獲量とされている。この装置では処理がおがくず(焼却炉)他の方法を検討する必要がある。</li> </ul>		

※資料は翌年度から5年間各自で保管する (伊万里市政務活動費の執行に関する運用方針 2-(1))